

D

90mm

S
F
作家

《吉川英治文学新人賞受賞》
「総門谷」講談社 1985年(上下巻)
「竜の柩」祥伝社 1989年(上下巻)
「バンドネオンの豹」講談社 1989年
「刻謎宮」徳間書店 1989年(全3巻)
「総門谷R」講談社 1991年
「星封陣」天山出版 1992年
「聖豹紀」講談社 1996年
「霊の柩」祥伝社 2000年
「あやかし」双葉社 2000年
「えびす聖子」幻冬舎 2001年
「ソリー」双葉社 2013年(上下巻) ほか

高橋のSF好きは筋金入りだ。何しろ本人が何度もUFOと遭遇したばかりか、父親を含め身近に何人もの目撃者がいるのである。

乱歩賞を受賞したデビュー作『写楽殺人事件』はミステリーだったが、本当は真っ先にSFを書きたかったという。乱歩賞の記者会見で「もうミステリーは書かない」と爆弾発言し、担当編集者を慌てさせたのもそのためだ。

高橋初のSF長編は、長年構想を温めてきた『総門谷』。スケールの大きさと圧倒的な想像力が選考委員に認められ、第七回吉川英治文学新人賞に輝いた。『総門谷』は現在も書き続けられ、人気のシリーズとなっている。

続く『竜の柩』は高橋SFの最高峰との呼び声が高い。人類史上最大の謎=神の正体を解き明かすため、四年がかりで千二百枚を書き上げた。「こんな小説は二度と書けない」と本人も述懐する、日本SF小説史の金字塔である。

C

92mm

高橋 克彦

たかはし かつひこ



1947年岩手県釜石市生まれ。

私立岩手中学校・高等学校卒業。在学中は演劇部に籍をおき役者、劇作家として活躍した。

医学部をめざして浪人したが、1970年、早稲田大学商学部に入學。1965年頃から小説を書きはじめ、同人誌『異端』『青塔派』を主宰。浮世絵研究を生かし執筆した『浮世絵鑑賞事典』(日本出版センター 1977年)が縁で、翌年アレン短期大学非常勤講師(近代日本文学史)に招聘される。

1983年『写楽殺人事件』で第29回江戸川乱歩賞を受賞、文壇デビューを果たす。

盛岡市在住。

《受賞歴》

1983(昭和58)年 『写楽殺人事件』で第29回江戸川乱歩賞
1986(昭和61)年 『総門谷』で第7回吉川英治文学新人賞
1987(昭和62)年 『北斎殺人事件』で第40回日本推理作家協会賞
1992(平成4)年 『緋い記憶』で第106回直木賞
2000(平成12)年 『火怨』で第34回吉川英治文学賞
2002(平成14)年 第53回NHK放送文化賞
第55回岩手日報文化賞
2012(平成24)年 第15回日本ミステリー文学大賞
2013(平成25)年 第2回歴史時代作家クラブ賞実績功労賞

1993(平成5)年 NHK大河ドラマ『炎立つ』原作執筆

2001(平成13)年 NHK大河ドラマ『北条時宗』原作執筆

高橋克彦 一人六人展

会期:2014年 9月27日(土)~11月3日(月・祝)

岩手町立 石神の丘美術館

〒028-4307 岩手県岩手郡岩手町五日市10-121-21
電話/0195-62-1453 <http://museum.ishigami-iwate.jp>

B

92mm

一人六人展
高橋克彦

解説/道又力(脚本家)

岩手町立
石神の丘美術館

A

90mm

ミ
ス
テ
リ
ー
作
家

《江戸川乱歩賞受賞》
「写楽殺人事件」講談社 1983年
《日本推理作家協会賞受賞》
「北斎殺人事件」講談社 1986年
「バンドラ・ケース よみがえる殺人」
文藝春秋 1988年
「広重殺人事件」講談社 1989年
「偶人館の殺人」祥伝社 1990年
「春信殺人事件 美術探偵 仙堂耿介」
光文社 1991年
「完四郎広目手控」集英社 1998年
「ゴッホ殺人事件」
講談社 2002年(上下巻) ほか

プロの作家になるため江戸川乱歩賞を取ろうと決めた高橋は、過去の受賞作品を全て読破し傾向と対策を練った。そうやって初めて書いた本格推理小説『写楽殺人事件』で見事、第二十九回乱歩賞を獲得。歴代受賞作中屈指の作品とされるばかりか、今では日本ミステリー史に残る名作との評価を受けている。

写楽の次は北斎の謎に挑戦。天才絵師の実像に迫る推理は精緻を極め、『北斎殺人事件』は『写楽殺人事件』を凌ぐ高橋ミステリーの最高傑作となった。同作で第四十回日本推理作家協会賞を受賞。知名度では乱歩賞に劣るものの、プロが集まった協会が選ぶハードルの高い賞である。「これで一人前のミステリーの書き手として認められた」と高橋は喜んだ。

平成二十四年には「わが国のミステリー文学の発展に著しく寄与した功績」により第十五回日本ミステリー文学大賞を受賞。この賞こそは、ミステリーの分野で功成り名を遂げた者のみに許される最高の賞なのである。